

摂南大学 看護学研究科看護学専攻 修士課程  
2025年度 入学試験問題<第3回>2025年2月15日

専門科目 (分野名)	健康発達支援看護学	受験番号	
------------	-----------	------	--

設問 I

以下の文章を読み、看護職者として対応可能な予防策について論述せよ。

虐待で死亡した可能性が高い18歳未満の子どもは2022年度、全国で72人(前年度比2人減)だったことが12日、こども家庭庁の専門委員会の報告書でわかった。無理心中を除いた虐待死では、0歳児が4割超に上った。

報告書によると、無理心中は16人。それ以外の56人を死亡時の年齢別でみると、0歳の25人(44.6%)が最も多かった。2歳が9人(16.1%)、1歳が5人(8.9%)で続いており、3歳未満だけで全体の約7割を占めた。

虐待死の類型別では、ネグレクト(育児放棄)が24人で最多、身体的虐待が17人だった。加害者は実母が23人で最も多く、次いで実母と実父が7人。予期せぬ妊娠をしたり、妊婦健診を未受診だったりした女性が目立った。

出典：2024.9.12 夕刊読売新聞9頁より抜粋

解答例

最初に0歳児が最も多かったことに着目する。0歳児の虐待死の約4割は生後0日での虐待死である。これは、出産(多くは孤独な出産)直後の死亡や遺棄を意味している。その背景には、望まない妊娠から妊娠したことを誰にも相談できないままひとりで出産し、新生児が死亡した事例であることが示唆される。したがって、子ども虐待防止のためには、まず、予期しない妊娠に関する啓発が必要である。具体的には、看護師や助産師などの専門職者として、教諭および養護教諭など学校教育者と連携した包括的セクシャリティ教育が必要である。その内容は、男女双方のからだの仕組みから、妊娠の成立、避妊方法、緊急避妊薬など発達段階に応じた正しい知識の提供が前提となる。併せて、思春期の子どもを養育する親への啓発を重要である。さらに、望まない妊娠への対応としては、自治体や妊娠SOS、子ども家庭相談などの相談機関につながるための情報提供も必要である。

次に、加害者の多くが実母であることに着目する。出産直後の支援として、産後入院中だけでなく、2週間健診、1か月健診といった継続した支援が必要である。特に、エジンバラ産後うつ質問票等を活用し、適切に母親のメンタルヘルス評価を行う必要がある。さらに、授乳・抱っこ・おむつ替えへの拒否感や無表情など育児困難な母親を早期発見した場合は、チームで情報共有し、必要であれば、新生児訪問、こんにちは赤ちゃん事業などの訪問を依頼する。状況により、産後ケア事業を勧めるなどの直接的な支援へとつなげる。一方で、わが国における子育ては女性への負担が大きいことに対し、女性と男性が共に子育てを行うことの啓発活動も必要である。

その後は、小児科受診や入院時には、あざ・火傷・骨折などが説明と一致しない場合には身体的虐待の徴候や、汚れた衣服、低栄養、長時間の放置、医療機関の未受診などネグレクトの兆候には注意を要する。「確証」ではなく「疑い」であっても子どもの生命の安全を最優先し、ためらわず通告する必要がある。しかし、看護職者は親を加害者として扱うのではなく、支援の対象ととらえ、親の背景や状況への理解を深め、必要な支援につなぐという意識と行動が必要である。

いずれにおいても、多職種連携および地域ネットワークは重要であり、院内では医師、看護職、ソーシャルワーカーと情報共有し、地域のこども家庭センターや児童相談所との連携体制を整備する。また、看護職自身が子ども虐待防止のための知識、通告手順、法制度などを定期的に学ぶ姿勢も重要となる。

妊娠・出産・育児のどの段階においても「孤立させない」かわりと「切れ目のない」支援が重要である。

摂南大学 看護学研究科看護学専攻 修士課程  
2025年度 入学試験問題<第3回>2025年2月15日

専門科目 (分野名)	健康発達支援看護学	受験番号	
------------	-----------	------	--

以下の設問Ⅱまたは設問Ⅲのうち、1問を選択しなさい。選択した設問の( )内に○印を付すこと。

( ) 設問Ⅱ

プレコンセプションケアにおける Action 5つのうちひとつを挙げ、その具体策を述べよ。

**解答例**

1. Action 1 : いまの自分を知ろう

- ①生物学的な男女の違い
- ②多様性
- ③適正体重
- ④運動
- ⑤ストレス
- ⑥基礎体温

2. Action 2 : 生活を整えよう

- ①栄養
- ②葉酸
- ③危険ドラッグ
- ④喫煙
- ⑤飲酒

3. Action 3 : 検査やワクチンを受けよう

- ①感染症
- ②ワクチン
- ③生活習慣病
- ④がん

4. Action 4 : かかりつけ医を持とう

- ①婦人科
- ②月経
- ③避妊
- ④歯科
- ⑤持病

5. Action 5 : 人生をデザインしてみよう

「プレコンセプションケア」は若い男女が将来のライフプランを考えて日々の生活や健康と向き合うことである。次世代を担う子どもの健康にもつながるとして近年注目されているヘルスケアであり、早い段階から正しい知識を得て健康的な生活を送ることで、将来の健やかな妊娠や出産につながり、未来の子どもの健康の可能性を広げる。いまは妊娠や結婚を考えていなくても、プレコンセプションケアを実施することで現在の自分がさらに健康になり、人生100年時代の満ち足りた自分 (well-being) の実現につながることを目標としている。上記5つの Action のひとつを挙げて、それぞれを構成する要素と内容が説明できることを求める。

摂南大学 看護学研究科看護学専攻 修士課程  
2025年度 入学試験問題<第3回>2025年2月15日

専門科目 (分野名)	健康発達支援看護学	受験番号	
------------	-----------	------	--

( ) 設問Ⅲ

子どもの意思決定に関して、小児医療における課題と看護師の役割についてあなたの考えを述べよ。

解答例

子どもの権利条約の中で、子どもの意見表明権（参加する権利）は明確に認められている。それは、子どもであってもこれから自分が受ける医療について説明を受け、医療に参加するといった権利である。しかしながら、医療における子どもの意思決定においては、次の課題が存在している。

1. 日本においては、18歳以下の子どもには法的に意思決定権が認められていないため、意思決定は親の価値観に依存する。  
意見表明権は15歳以上で尊重されるようになってきたが、意思決定権は法的に認められていない。そのため、子どもへの説明なく親の意向で医療が進められるといった現状もある。  
看護師は、子どもが主体的に医療に参加することの必要性を理解してもらえよう、親に丁寧に説明する役割がある。また子ども自身が意思決定できなくても、主体的に医療が受けられるよう、子どもへも説明を行い、親の意思決定に納得できる（インフォームドアセント）支援も必要である。
2. 子どもは発達途上にあり理解力や判断力が未熟なため、子どもへの説明が難しい。  
意思決定を行うためには必要な情報、その後の見通しなどの理解、自身の状況などを考えあわせた上で、選択肢の中から適切な選択するという一連の過程が必要である。しかし、子どもはこれまでの経験の少なさ、理解力や判断力の未熟さから、説明内容を理解することや適切な選択肢を選択することが困難である。例えば、乳児の場合は言葉による理解は不可能であり、意思決定は親に依存することになる。幼児期の子どもは抽象的な概念が未発達であり、目に見えないことへの理解が困難である。また、子どもは理解できない存在としてとらえられ、何も知らされずに不安を大きくすることもある。  
看護師は、このような子どもの認知発達段階や個別性を理解し、適切な看護を提供する。例えば、幼児への説明では、絵や図を用いて、目で見て理解できる方法を用いて、どんな感じがするか、これからどのようなことを経験するのかを丁寧に説明するなど、子どもの理解を促す支援（プレパレーション）が看護師の役割である。